茨城県畜産センター
令和３年度評価書

令和４年１１月

茨城県畜産センター

外部評価委員会

【様式6】

□総合評価

評価：A（2.9）	試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ，質・量の両面において着実に取り組みを実施していると判断できる。

評価できる点は、コロナ禍にあっても着実に業務を遂行し、試験研究も概ね遅滞なく計画が進められていると判断された。特に民間企業との共同研究の増加している。また、多くの研究課題に取り組んでいることに加え、広報・相談・指導・人材育成など外部に向けた活動に積極的に取り組んでいる。特に「指導業務」は目標を大幅に上回る技術指導、情報提供を行っており、現場のニーズに的確に対応している。指導業務および他機関との連携を強めることは、これからの畜産の持続的な発展には欠かせない取組みである。

改善を要する点は、依頼分析や分析機器等の外部利用は数年にわたり目標より少ない状態が続いている。その背景を把握し、行政目標に対応した栽培指導やニーズの掘り起こし、あるいは現場ニーズに対応した目標値の引き下げが必要。普及組織との連携については、県内の畜産農家の支援に不可欠であるため進めて頂きたい。

畜産センターに期待される、役割や達成すべき目標に照らして、着実に取り組みを進められ、概ね順調に成果を上げていると評価する。

□項目別評価

ｉ）県民に対して提供する業務

1）試験研究　　評価： A

①乳用牛へのファイトケミカル給与による繁殖成績及び乳生産性向上技術の開発に関する試験研究
　概ね、当初の目標を達成し、効果を示唆する結果が得られている。しかしながら、社会実装するには十分量のブロッコリーの確保が不可欠である。どこまで拡大が可能かについての試算が必要である。また今後の研究の発展に向けては、検体数の増加によるデータの確実性、再現性に注意を払う必要がある。現場での普及には、ブロッコリー加工品残渣の効率的な輸送やサイレージ調製、サイレージ化したものの効果の検証など、多くの課題が残されている。普及に向け今後も関与を継続して貰いたい。

②フィターゼ添加低タンパク質飼料給与による採卵鶏における環境負荷低減技術の開発
　採卵鶏にフィターゼ添加低タンパク質飼料を給与することにより排泄物の量と排泄物中のアンモニアの量を低減できることを明らかにし、環境負荷の低減に貢献する成果を上げた。また、肥料としての成分や効果にも差が無いことを明らかにしており、そのままでも現場で活用できる有意義な成果である。育成鶏への給与法や飼料の規格化など、後継プロジェクトでの進展に期待したい。環境負荷軽減効果や臭気物質排出低減効果等が明らかとなったことは、生産者にとっては朗報である。

③採卵鶏の生産性向上のための低タンパク質飼料給与法の研究
　コストや環境負荷の低減につながる低タンパク質飼料を給与しても産卵鶏の生産性に影響しないことを実証した点は評価できる。暑熱ストレス下でPhy添加の効果を示せなかった点は残念だが、施設の構造上暑熱の影響は環境に左右されるためやむを得ない。その原因は試験期間中の暑熱負荷があまり高くなかったからと推察しているようなので、Phy添加の耐暑性効果については、さらなる高温環境下での検討が望まれる。

2）相談業務・依頼分析　　評価： A

農家からの技術相談の回数は、目標を超えており、主な相談内容から畜産農家や技術者から相談先として信頼されていることが伺える。十分な対応を行ったと判断される。依頼分析については、堆肥等の分析件数が目標を達成していたものの、自給飼料の分析件数は目標値の半分以下であったことから、需要の掘り起こしや、ニーズに見合っていない可能性がある。

3）指導業務　　評価： AA

試験研究成果等を周知するため研修会等を積極的に実施しており、コロナ禍にあって特筆すべき成果である。技術指導、情報提供は、3箇所すべてで目標を大幅に上回っており、自己評価は妥当である。

4）施設・設備利用　評価： B

分析機器の外部利用件数が目標の4割以下と少なかったことから、自己評価は妥当である。コロナ禍で依頼元の活動が低下したからか、原因を探り適切な対応を行って頂くよう期待する。

5）成果の普及活用促進　評価： B

組織再編等の影響があったことは否めないが、既存の方法以外のやり方について検討していただきたい。

6）外部人材育成，教育活動への協力　評価： A

コロナ禍で加工体験は開催できなかったが、出前講座に取り組むなど工夫が認められる。家畜人工授精講習会の開催、共進会・共励会等の審査、インターンシップの受け入れや畜産教育支援等、多くの活動を概ね計画どおりに行なっており、自己評価は妥当である。

7）知的財産権の取得・活用及び優良遺伝資源の供給　評価： A

精液供給本数は目標値を若干下回ったが、受精卵の採卵や供給は目標値を大幅に超えており、県内畜産業の発展に充分貢献している。特に系統豚の供給は農家の期待も大きいと推察されるので、安定的な供給体制の構築、維持を期待する。今年度は種畜・特許等の登録に繋がらなかったが、次期中期計画が開始する次年度以降の登録に期待する。

8）広報・普及啓発　評価： A

コロナ禍で畜産センター公開デーは開催できなかったが、フェイスブックを積極的に活用して情報発信に努めていることは評価できる。
学術論文を発表できなかったことは残念だが、研究報告を発行し、学会発表、広報誌への寄稿等、研究成果の発信に努めており、自己評価は概ね妥当である。
学会誌等へ掲載されることはその成果が科学的に担保されたということであり、試験研究の底上げにもつながるので積極的な取り組みを期待する。

ⅱ）業務の質的向上，効率化のために実施する方策

1）全体マネジメント　評価： A

コロナ禍で主要成果検討会を開催できなかったが、その他の項目は概ね当初の目標回数を達成しており、自己評価を支持する。

2）県民（企業，農業者等）ニーズの把握　評価： A

生産者サイドからのニーズの把握が着実に実施されていると判断される。今後は、得られたニーズが研究計画の立案に反映されることを期待する。

3）他機関との連携　評価： AA

国立研究開発法人、大学はもとより民間企業との共同研究が積極的に進められたことは非常に素晴らしい。特に、共同研究の増加は今後の外部資金獲得と成果の創出を期待させる。

4）外部資金の獲得方針　評価： A

国、団体等の外部研究資金に応募し採択され、外部資金の獲得に向けて積極的に取り組んでいると推察される。しかしながら、企業の委託研究に1件も応募できなかったということは、研究の企画やガバナンスに問題があった可能性がある。今後は応募の件数を増やし、より大型の競争的資金が獲得できるよう期待する。

5）内部人材育成　評価： A

外部の研修、学会等へ積極的に職員を派遣するとともに、若手職員を対象とした内部研修会をこまめに開催するなど、内部人材の育成に努めていると判断される。